

島田市博物館年報・紀要



第 19 号（令和 2 年度）

島 田 市 博 物 館

はじめに

島田市博物館は、静岡県中央を流れる大井川の左岸に位置し、隣接して江戸時代の東海道に沿った国指定史跡「島田宿大井川川越遺跡」があります。

江戸時代、大井川は幕府により渡船や架橋を禁じられ、川越人足による渡河という川越制度が生まれ東海道の難所として馬子唄にもうたわれました。一方、川越制度は増水による「川留め」から宿場の繁栄をもたらし、宿場独自の文化の形成に繋がりました。

当博物館は、こうした独自の発展を遂げた街道文化に関わる資料を主に収集・展示して当時の旅の姿と全国的にも珍しい交通制度を紹介するため、平成4（1992）年5月に開館しました。1階は「旅と旅人」をテーマに旅と宿場に関わる資料を、2階は主として島田市および大井川流域の歴史や伝統文化や芸術活動などを紹介する企画展等を開催する特別展示室から構成されています。

また、川越遺跡の東端には、明治時代後期に建てられた日本家屋と静岡市出身の版画家「海野光弘」の作品を展示する海野光弘版画記念館や、更には今では見ることが難しくなった民俗資料を展示する民俗資料室があります。

このような貴重な歴史や文化を通して、新しい価値を発見し、創出していく場として、また地域に根ざした博物館として、市民との協働を軸に「いつでも、誰でも、気軽に集える博物館」を目指していきたいと考えています。

このたび、当博物館の概要と年間の展示及び学習活動、文化財の保存及び活用、市史編さん事業等について取りまとめ、年報19号として発行しました。

この年報を通して、博物館活動について皆さま方のご理解をいただくとともにご支援とご協力をお願いいたします。

令和4年3月

島田市博物館

令和2年度 年報